

メールマガジン原稿 (2019/05/07 版)

いつもお世話になっております。
カウンセリングストリート株式会社です。
今月のメールマガジンをお送りします。
是非お読みいただき、皆さまの業務の参考にしていただければ幸いです。

:*: *: *: *: *: *: *: *: *: *: :

+ vol. 266(2019/05/07)
++ ストレスチェックテスト 発症者を減らすために
+++ カウンセリングストリート株式会社 <https://counseling.st/>

:*: *: *: *: *: *: *: *: *: *: :

本号のトピックス =====

1. ストレスチェックテスト 発症者を減らすために
意義のある組織分析になっていますか？

2. ラインケア研修 無料体験会のお知らせ
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡

3. メンタルヘルス ニュースピックアップ

.....

1. ストレスチェックテスト 発症者を減らすために
意義のある組織分析になっていますか？
.....

前号、前々号で 57 問テストの項目には意図のあいまいなものがあることや、ストレス耐性に関する項目が取り上げられていないことなどについてお伝えしました。

今月は、組織分析について考えてみたいと思います。

ストレスチェックテスト実施後は、事業者は、メンタルヘルス不調の未然防止（一次予防）のため、「従業員個人への対策」と「職場環境の改善によってストレスの要因そのものを低減すること」が求められています。

この「職場環境の改善」のために、ストレスチェックテスト結果から「組織分析」が行われているのですが、皆様の会社ではうまく活用できているでしょうか。

いわゆる 57 問テストの組織分析では、次の 2 つのグラフが提示されます。
「仕事の量的負担 - 仕事のコントロール」
「上司の支援 - 同僚の支援」

このグラフを苦労して読み解いても、分かるのは次の 3 つだけです。

- ・業務負荷（仕事の量的負担）
- ・裁量度（仕事のコントロール）
- ・サポート（職場支援）

これら 3 つの指標が全国平均に比べて高いのか低いのかを示されるのですが、これら 3 つの指標で効果的な組織改善は可能なのでしょうか？

「業務負荷」は比較的わかりやすい指標ですが、他の 2 つはどうでしょう。

「裁量度」については点数が高いほうがストレスが少ないとされているようですが、実際にはいろいろな状況や考え方があります。
例えば、業務マニュアルが整備されていて、それに則って仕事をするような職種もありますが、その場合「裁量度」は当然少なくなります。
しかし、この職種において、裁量度を上げる改善が必ずしも発症予防に有効でしょうか。

「サポート」については、そもそもの設問が
・どのくらい気軽に話ができますか？
・困った時、どのくらい頼りになりますか？
・個人的な問題を相談したら、どのくらい聞いてくれますか？
というものですから、組織改善のために、どう判断すれば良いのか困るところです。

このように、57問テストでは、職場のストレス状態の度合いのみを提示しており、組織要因の詳細は検討していません。

my-Mental の組織分析では、発症者を減らすための職場環境の改善につなげやすいよう、組織が抱えている問題そのものを次の6つのカテゴリーでフィードバックしています。

- ・上司マネジメントの問題
- ・人事評価の問題
- ・自己能力認識の問題
- ・職場関係性の問題
- ・業務負荷認識の問題
- ・役割責任の問題

これらのカテゴリーは、メンタル不調を引き起こしやすい要因として研究で明らかになったものです。

さらに、問題のあった項目、例えば「上司マネジメント」のうち、どこが問題となっているのかが組織分析の中で言及されていますので、細かく状況確認をして、対処することが可能になっています。

弊社では、オリジナルのストレスチェックテスト my-Mental のご提供に合わせ、きめ細かなコンサルティングをいたしております。

my-Mental の詳細およびストレスチェックにかかわる様々な問題について、詳しくお知りになりたい方は是非弊社担当にご連絡いただくか、このメールにご返信ください。

.....

2. ラインケア研修 無料体験会のお知らせ

東京・大阪・名古屋・仙台・福岡

.....

以下の無料セミナーを開催します。
参加ご希望の方は貴社担当コンサルタントに直接ご連絡いただくか、または magazine@counseling.st まで、
ご希望の都市名(東京 / 大阪 / 名古屋 / 仙台 / 福岡)、
講座名と貴社名、部署、お名前、電話番号、
ご参加希望日程 をお書きの上メールにてご連絡ください。
東京を除く。
曜日午後、月末週を除く、月 日は NG 等。
日時はご希望の多い日程を考慮し決定させていただきます。

【東京】

講座名 < ラインケア研修体験会 >

~ 発症者を減らすためのラインケア研修 (基礎編) 体験会 ~

機能に重要な働きを持つ蛋白質です。そのため、今回の研究成果を足がかりに、眠気とは何か、眠りの機能は何かという2つの根本的な問いの解明が進むと共に、将来的には多くの人の睡眠の質向上や睡眠障害の治療法開発に発展することが期待されます。

Zhiqiang Wang, Jing Ma, Chika Miyoshi, Yuxin Li, Makito Sato, Yukino Ogawa, Tingting Lou, Chengyuan Ma, Xue Gao, Chiyu Lee, Tomoyuki Fujiyama, Xiaojie Yang, Shuang Zhou, Noriko Hotta-Hirashima, Daniela Klewe Nebenius, Aya Ikkyu, Miyo Kakizaki, Satomi Kanno, Liqin Cao, Satoru Takahashi, Junmin Peng, Yonghao Yu, Hiromasa Funato, Masashi Yanagisawa, Qinghua Liu.

“ Quantitative phosphoproteomic analysis of the molecular substrates of sleep need ” Nature DOI: 10.1038/s41586 018 0218 8

プレスリリースより一部抜粋して掲載しております

<http://www.tsukuba.ac.jp/attention-research/p201706140200.html>

【個人情報保護方針】

個人情報の取扱いについて、以下の内容をご確認ください。

- 1、当社は、個人情報の適切な管理に取り組みます。
- 2、当社は、あらかじめお客様からご了解いただいている場合や法令で認められている場合を除き、当サイトを通じて知りえた個人情報を第三者に提供または開示いたしません。
- 3、当社は、関連する法令、その他の規範を遵守します。

ご感想、お問い合わせ、メルマガ配信先変更、解除の手続きはこちらまでお願いします。

magazine@counseling.st

解除の場合は、(貴社名 / ご連絡先 / その理由) をご記入ください。

カウンセリングストリート株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布 3-13-10 パークサイドセピア 9F

Tel : 03-5770-3201 e-mail : magazine@counseling.st

Fax : 03-5770-2207 URL : <https://counseling.st/>

(C)2019 Counseling Street Inc. All Rights Reserved